

山鳥坂ダム環境検討委員会
「第1回 動植物の保全に関する専門部会」
議事概要

日時 平成19年3月8日 13:30~15:45

会場 愛媛県県民文化会館別館 第14会議室

出席者 松山東雲短期大学 松井教授

愛媛大学農学部 山口助教授

樹木医 得居氏

議事概要

出席者の紹介の後、事務局より当専門部会の位置づけについての説明を実施。

その後、資料をもとに議論をし、出席者からは下記のとおり発言がありました。

1. 植物に関する保全措置の基本的な考え方について

- ・ 保全措置の方針は、現地調査結果の状況によっては変更する可能性がある。
- ・ 現地調査から長期間が経過した種については、現在も生育しているのか、同定がきちんとなされているのか、確認する必要がある。
- ・ 保全目標として、モニタリング目安の一定期間を5年程度とするのは、適切であると考えられる。
- ・ 適切な移植手法を検討するには、事前の生育状況のモニタリングを行い、発芽、開花、結実の時期及び状況等を確認する必要がある。移植後のモニタリング項目も把握できる。調査は、今年の春の早い時期から、現場においてこまめに観察する。対象種は保全措置対象種21種全てとする。何回かに分けて実施するのが良い。

2. 具体的な移植計画について

2-1. アカソ

- ・ アカソは同定が難しく、クサコアカソ等と間違いがないか確認する必要がある。
- ・ 移植適地は、スギ・ヒノキ植林は林床が暗くなるので、落葉広葉樹林の湿った場所の方がよいのではないかと。スギ・ヒノキ植林で確認されているからといって、その場所が良いとは限らない。文献による生育適地も確認すること。(他種についても同様)
- ・ 仮移植と本移植の2回移植を行うことは、植物にとってはストレスになるので、移植先へ持って行って、移植実験も含め移植したほうが良い。
- ・ 園芸の場合には、圃場で元気にさせてから、自生地に戻す方法を行う。そちらの方が、施設を作る等手間がかかるが、ダメージを受けた根が回復し、成功率が高い。
- ・ アカソは花期でなくても確認が可能であるため、生育確認状況調査はもっと早い方がよく、展葉する5月頃と、種子が採取できる時期に実施するのが良い。

- ・ 播種を行う場合には、播種量、発芽率、播種面積、播種方法等、記録を残しておくことが大切である。
- ・ 移植の時期は問題ないと考えられる。

2-2. スズサイコ

- ・ スズサイコの種子採取は7～8月でよい。
- ・ スズサイコの生育適地は、草刈等がされている草地であり、移植後、維持管理し、その環境を維持していけるかどうか重要である。

2-3. コシロネ

- ・ 播種による増殖地は、湿地を模したプランターで播種し、管理することが可能である。
- ・ 改変されない確認地点 2 は移植先として利用できると考えられる。
- ・ 秋に休眠してからの移植が良いと考えられる。

2-4. ゴマギ

- ・ ゴマギは花がなくても同定可能であるため、生育状況調査は、種子採取の8～10月の1回のみでよい。移植適地調査も同時の8～10月に実施するのが良いと考えられる。
- ・ 根回しの必要性については、地点 1 の個体については、高木であるため、根回しが必要。地点 2～5 については、小さいので根回しは必要がないと考えられるが、先生方に現地で確認してもらうのが良い。
- ・ 樹木だけでなく、草本も挿し木による増殖が可能である。実施時期は、一般的には、梅雨前後から夏過ぎまで、花が咲く前の生育中であれば大丈夫。
- ・ 生育状況調査では、樹高、胸高直径だけでなく、枝張り長も測定した方が良い。樹齢も確認すること。

2-5. ホシクサ

- ・ ホシクサの移植適地については、溜池ははずした方がよい。
- ・ 播種床を乾燥させないことも大切であるが、ホシクサの種子を乾燥させないことも大切である。
- ・ ホシクサの結実期は、9月～10月頃だろう。生育環境調査は、花期でなくても確認可能と考えられる。
- ・ 以前は雑草扱いで、現在も県内には多く分布する。

2-6. ムヨウラン属の一種

- ・ ムヨウラン属の一種は、最初に現地調査により種の決定をしなければならない。
- ・ 移植については、圃場への仮移植なしで直接移植する。移植適地を平成 19 年度に設定

する必要がある。

- 平成 19 年度 1,2 ヶ所を対象として移植実験を実施する。平成 19 年度の生育状況調査において、クロムヨウランが見つければ、無菌培養という方法も考えられる。
- ムヨウラン類の無菌培養及び組織培養の成功例はないが、これはむしろ実施事例がないことによる。無菌培養は選択肢としては残しておき、現地での確認状況を踏まえ、決定する。実験材料を提供すれば、培養実験をしてくれる大学等があるかもしれない。

3. 全体を通して

- マヤランの確認調査は今年実施する。
- 移植時の掘取りの際の用具として、土壌を乱さず移植するコンテナのような器具や、土を切る専用のチェーンソー等があり、うまく利用すべきである。播種についても、のりをつけて種子が流れないシードテープ等がある。活着率を上げるには、オーキシンのホルモン剤、発根促進剤等を使用する。
- 移植の際には、危険分散のため、1 種を複数箇所に分けて移植する方が良い。
- 溜池や湿地等に生育する種について、重要種の保管場所（ビオトープ等）をつくるのが良いのではないか。